

「水中考古学手法による元寇沈船の調査と研究」による調査・研究の概要
平成23～27（2011～2015）年度科学研究費補助金基盤研究（S）（課題番号23222002）

池田榮史

1、鷹島海底遺跡の調査・研究略史

①1980～82（昭和55～57）年度

文部省科学研究費特定研究「古文化財に関する保存科学と人文・自然科学」（研究代表者：江上波夫）の一つとして、「水中考古学に関する基礎的研究」（研究代表者：茂在寅男）が組織され、鷹島周辺海域での調査実施（音波探査機器の導入と海底地層調査、潜水調査）

→ 鷹島海底遺跡における水中考古学研究の開始

② 1981（昭和56）年7月20日

鷹島の南海岸延長7.5kmの沖合い200mの範囲について周知の遺跡化

1983（昭和58）年

鷹島床浪港離岸防波堤建設工事に伴う緊急発掘調査

③ 1988・89（昭和63・平成元）年

鷹島床浪港護岸堤工事に伴う緊急発掘調査

④ 1989～91（平成元～3）年度

科学研究費補助金（総合研究A）「鷹島海底における元寇関連遺跡の調査・研究・保存方法に関する基礎的研究」（研究代表者：西谷正）による鷹島周辺海域での調査実施（音波探査、潜水調査）

⑤ 1995・96（平成6・7）年度

鷹島神崎港改修工事に伴う緊急発掘調査 → 大型木製碇出土

⑥ 1992～99（平成4～11）年度

鷹島町による鷹島海底遺跡目視分布調査（主に神崎港周辺地域）

⑦ 2000～04（平成12～16）年度

国庫補助を受けた鷹島町による神崎港試掘調査

⑧ 2000～02（平成12～14）年

神崎港改修工事に伴う緊急発掘調査 → 甲冑類、漆器類、船材類など大量出土

2、琉球大学による鷹島海底遺跡の調査

①2005（平成17）年度

科学研究費補助金特定領域研究「中世考古学の総合的研究」（研究代表者：前川要）の分担研究「中世東アジアの交流・交易システムに関する新研究戦略の開発・検討」による物理学的海底探査機器（超高分解能フォーカストマルチビーム測深システム（SeaBat7125）および高分解能地層探査装置

(StrataBox) を用いた実験的・海底地形・地質調査の実施

②2006～11 (平成 18～23) 年度

国庫補助による松浦市伊万里湾海底詳細地形・地質調査へ上記物理学的海底探査機器を導入(概査)

③2006～10 (平成 18～22) 年度

科学研究費補助金(基盤研究(S))「長崎県北松浦郡鷹島周辺海底に眠る元寇関連遺跡・遺物の把握と解明」による新たな探査(精査)の実施(Ses2000の導入)と、既存出土遺物の考古学的資料化作業と報告、物理探査成果を踏まえた水中考古学的調査手法の模索と海底試掘調査

→ 元寇船の一部と磚の発見

④2011～15 (平成 23～27) 年度

科学研究費補助金(基盤研究(S))「水中考古学手法による元寇沈船の調査と研究」による考古学的調査に着手

→ 元寇船の確認(2011年10月調査)

確認調査(2012年6月および10月)

3、今後の課題

①科学研究費による調査・研究上の課題

i、周辺海域での継続的調査・研究 ⇒ 発見に至る過程の追検証

⇒ 複数の元寇船による比較研究

ii、蒙古襲来(元寇)に関する国際共同研究の推進

(進行中:韓国海洋文化財研究所との連携研究)

②発見した元寇沈船に関わる課題

i、今後の保全・保存について

・海底発見船体木材に対する銅網保存の有効性に関する検証

・木材に塗布された漆喰の保全策

ii、保存・活用のための施設および組織の構築

③科研費による調査以後の課題

i、鷹島海底遺跡に関する地元行政体施策のあり方(松浦市・長崎県)

(現況:松浦市と琉球大学との間の連携協定に基づく共同調査研究)

ii、日本における水中文化遺産研究に関する課題

調査研究機関の設置

人材の育成